

明治隧道 Project

@ 広島縣・岡山縣

by taihei @ tunnel web



撤去 -She has died.-
改修大 -She has turned over.-

玖波隧道

Mapion 地図

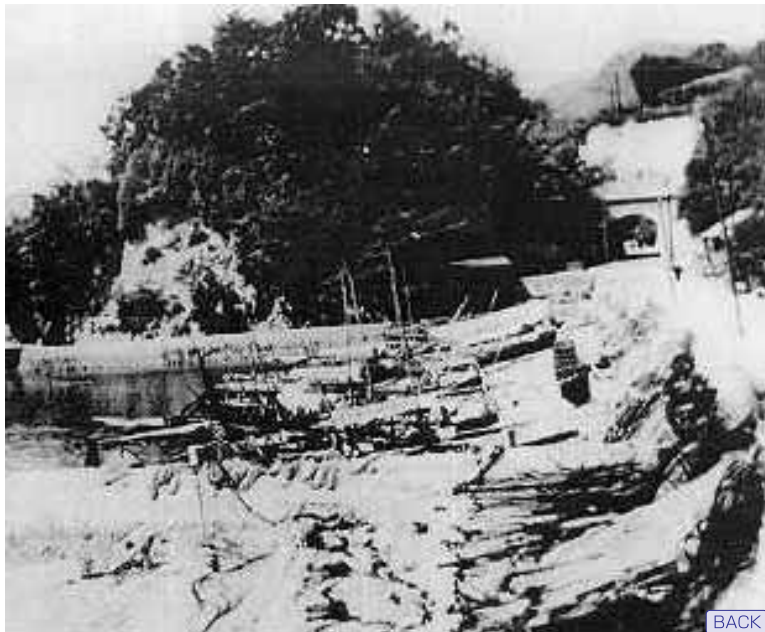
隧道 データベース

広島県大竹市 / 明治 12 (1879) 年竣工、昭和 11 年改修

西国街道（山陽道）の宿場町として栄えた大竹市玖波地区。廿日市市大野浦からこの玖波にかけては四十八坂といわれる山中を通る難所であった。この区間については、現在でも一部で石畳が残るなど当時の面影を色濃く残している。

明治になり国道整備を行うにあたって、ようやく海岸沿いの道路が整備されることとなり玖波の町の北東側の入り口にあたった馬ためし峠と呼ばれた小さな尾根の先端を穿つ隧道が明治 12 年に竣工している。

この隧道はきちんとした記録が残っているものでは中国地方で最初に建設された道路隧道ということになる。全国的に見ても国道として建設された隧道としては初期のものにあたる。（隠岐の初代福浦隧道はこれより早い建設の可能性があるがあくまで集落間を結ぶ人道としてのものであった。）

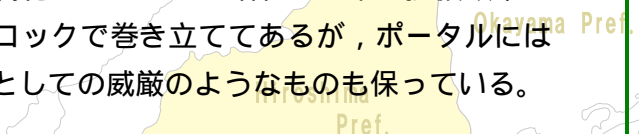
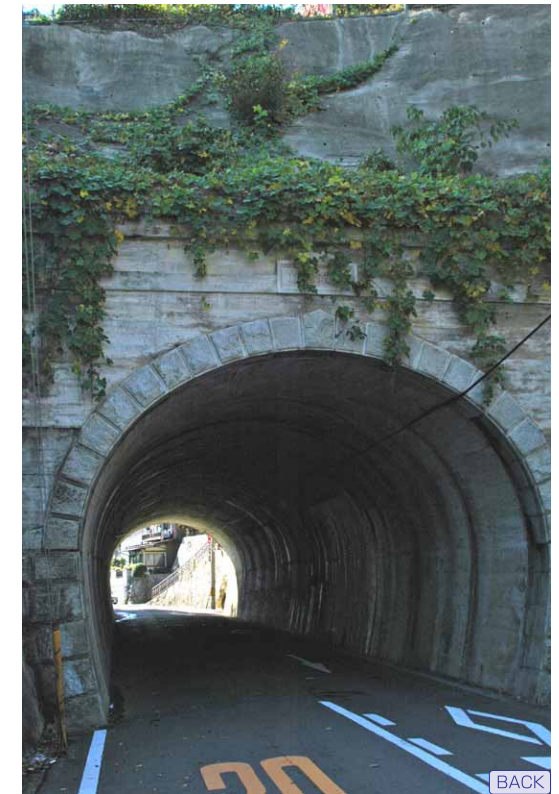


昭和 10 年代の玖波漁港と隧道（改修後）
写真引用「目で見る大竹・廿日市の 100 年」



当初の姿や諸元については、資料を見つけれなかったため、どのようなものであったのかは不明である。石造あるいは煉瓦造のものであったかもしれない。

現在残っている隧道は交通量の増加に伴う陳腐化にともなって昭和 11 年に拡張改築されたものだ。それでも、内部はコンクリートブロックで巻き立ててあるが、ポータルには石組みの飾りつけがなされるなど主要国道隧道としての威厳のようなものも保っている。



改修大 -She has turned over-

潜龍門

Mapion 地図

隧道 データベース

広島県廿日市市 / 明治 44 (1911) 年竣工

日本三景の一つ安芸の宮島の栈橋の正面に「保存」状態に残っている旧県道厳島公園線の隧道で、隧道データベースにおいては当初、所在地が宮島町包ヶ浦となっていたが、実際の所在地は宮島栈橋の正面。船を下りてターミナルの建物を出ればすぐにわかる位置にある。

かつては、海岸沿いの岩鼻を削り貫いたトンネルであったのだろうが、地先が埋め立てられて栈橋となってしまったため、一線を退いている。もうじき竣工 100 年となる。 隧道ではなく「潜龍門」とはなかなか渋いネーミングだ。内部はモルタルで塗装してあるため当初の構造は見る事が出来ないが、小さいながらも石造の坑門をもつ。



ここからあとは、余談と観光宣伝になるが、宮島町内には、建設年代こそ下がるものの昔ながらの狭い街中に自動車を何とか通すために、小さな隧道がいくつも建設されている。厳島の島内には新しいものも含めて7本のトンネルがあるが、平成に竣工したものも含めて「トンネル」表記のものはない。

また、宮島には厳島神社のほかにも毛利元就が山口の大内領を手にするきっかけとなった厳島合戦の古戦場、明治時代に建設された広島湾要塞の残骸などもあり、古代から近代までそれぞれの歴史遺産が残っている。



Hiroshima Pref.

撤去 - She has di ed-

棚ヶ瀬隧道

Mapion 地図

隧道 データベース

岡山県新見市 / 明治 39 (1880) 年竣工、撤去年不明

新見往来と呼ばれた高梁（備中松山）城下と新見を結ぶ道は、高梁川に沿うルートは石灰岩地帯が深くえぐられ、両岸が切り立った峡谷となっていたため、一部で川に沿わず山越えをする二本のルートで結ばれていた。高梁川沿いにも道はつけられていたようで、山越えを避けることができるため利用者も多かったようだが、増水時には通行できないなど、不便かつ危険な道であったという。

明治になり、特に険路であった阿賀郡草間村（当時）の谷間地区と広石地区の間は、郡内有志が出資して（当時は、県道ですらなかったようで、工事費用 3,360 円は地元がすべて負担している。）明治 13 年に改修工事が行われた。中国地方の他県で地方道路改修が本格化するはこの数年後からであるから、時期的にはかなり早い時期の改修といえるだろう。難工事であったとされるが、わずか半年で 5.2 キロの道路改修が竣工した。

しかし、この改修後も新見高梁間の川沿いのルートは車馬の通行に十分とは言えず、渡船場や栈道区間も存在したことから県道に編入された後、明治 36 年の正田橋、井倉橋の架橋や明治 39 年にはこの棚ヶ瀬隧道の建設、拡幅や坂道の切り下げが行われるなど改築が続けられ、大正末期に至ってようやく渡船場が廃止され、改良が完了することとなった。

現在では、県道は国道 180 号となり、さらにその改築に伴って隧道は撤去され、小さな切通がその姿をとどめるだけであるが、近くにある絹掛の滝の駐車場に扁額と修路碑が残されている。

現役時代諸元 - 延長 21.0m 幅員 3.8m 有効高 4.2m



◀ 南側から隧道跡を望む。わずか 21mほどの延長であったため、現在はその面影を偲ぶすべもないが、岩山に生えている一本の松は当時から唯一残るものだという。

明治 14 年に建てられた「修路碑」多少大きさには書いてあるのだろうが、当時の険路ぶりがうかがえる。碑の足元にははずされた扁額が安置されている。▶▼



Hiroshima Pref.